

## 信頼される学校であるための行動計画

令和5年4月19日

相可高等学校

教職員の資質向上とコンプライアンスの推進が言われ続けているにもかかわらず、教職員による不祥事がたびたび発生しています。不祥事を防止するには、すべての職員一人ひとりが不祥事を他人事ではなく自分のこととして捉え、不祥事防止に向けて主体的に取り組むとともに、その取組の機運を組織として高めていける組織風土の構築が必要です。また、粘り強く、改善しながら継続していくことが必要です。このため、本校では生徒・保護者をはじめ、全ての関係する皆様から信頼される学校であり続けることを目的に、本計画を定めます。

### 1 相可高校の現状と課題

- (1) 本校は比較的教職経験豊かな教員が多く、学校運営上は安定感があります。しかしながら、仕事の偏りや、4学科を有する総合高校であるため、学校全体や学科間、職員間での情報共有が十分できていないことがあります。
- (2) ストレスチェック集団分析では、全体として働きがい、仕事や生活の満足度は高いですが、一方で身体的負担度や仕事量についての心理的な仕事の負担、疲労感、家族や友人からのサポートは低くなっています。一人当たりの月平均時間外労働は微増、一人当たりの年間休暇取得日数はわずかですが減っています。業務量の見直し、ワーク・ライフ・バランスを意識した職場づくりが求められます。

### 2 行動計画

- (1) 教職員の規範意識の確立
  - ① 管理職の意識が教職員の意識を左右することを忘れず、率先垂範し、教職員としての自覚、使命感、規範意識の保持に努めます。
  - ② 管理職は教職員の行動や言動の変化に気を配り、不祥事の前に発生している小さな兆候を見逃さないよう努めます。
  - ③ 管理職から教職員の意識啓発に繋がる話題を提供します。  
それらを受け、学科や学年、分掌等の小さな集団でのミーティングを行い、教職員としての規範意識の向上に努めます。
  - ④ 校内での「ヒヤリハット事例」を情報共有し、ヒヤリハットに対する感度を高めます。
  - ⑤ 「信頼される学校であるための行動計画チェックリスト」を年度当初と年度末に実施し、教職員の規範意識の変化を確認します。
  - ⑥ 教職員対象コンプライアンス研修を学期に1回以上実施し、生徒・保護者とのSNS等の使用に係る取り扱い、体罰等の禁止、交通事故の防止、勤務時間の適正管理、個人情報の管理の徹底、部活動等の指導における安全確保等について意識の啓発に努めます。
- (2) 教職員が心身ともに健康で生き生きと業務に取り組める環境づくり
  - ① ワーク・ライフ・バランスを重視し、会議や研修の精選、業務内容や分掌の見直し等を行い、業務の効率化や過重労働の解消等、働き方改革に取り組みます。
  - ② 管理職と教職員が常にコミュニケーションをとれる風通しの良い明るい職場づくりを行います。また、たとえ気まずいことでも気軽に言い合える、遠慮なく相談や意見交換ができる風土づくりを組織全体で進めます。
  - ③ 産業医やスクールカウンセラー等と連携し、教職員の心身の健康状況の把握と悪化防止に努めます。